



校訓

考える人 心豊かな人 たくましい人

霧島市立国分南中学校

学校便り 11月2号

令和7年11月11日発行

主権者としての学び、理解、考えが大切である

校長 平國弘明(ひらくに こうめい)

先週、火曜日に生徒集会が行われ、第59代生徒会が発足。併せて令和7年度も後期生徒会活動に移行した。各作業区域の担当も交代し、新鮮な気持ちで作業に取り組む姿が見られる。これまでの取組の上にさらなる工夫と改善を行い、新たな試みに挑戦し過去最高南中をつくり上げよう。

さて9日に、霧島市市議会議員選挙及び霧島市長選挙が告示された。議員選挙には定数26名に対し、29名が、市長選には3名の候補者が立候補している。1週間後の16日が投票日である。各家庭にも選挙広報誌が届けられるので、各候補者がどんな政策に取り組もうとしているのかを見てみよう。その上で、現時点で自分なら誰に投票するかということを考えてみて欲しい。3年生はあとわずか3年で選挙権を持つ有権者となる。そこに向けた実践的な学びともなろう。

これに関して、ライフネット生命開業者で現在、立命館太平洋大学(APU)学長特命補佐の出口治明(でぐち はるあき)さんは、その著書の中で「社会を生き抜くための『7つの武器』」として次のことを挙げていらっしゃる。それは、

- ①「国家」の基礎を知る
- ②「政府」の基礎を知る
- ③「選挙」の基礎を知る
- ④「税金」の基礎を知る
- ⑤「社会保障」の基礎を知る
- ⑥「お金」の基礎を知る
- ⑦「情報の真偽」を確かめる基礎を知る

その中で「選挙」については、「選挙は議員を選んで立法府をつくるもの

ですが、立法府が定めた法律で行政や司法が動いていくわけですから、政府をつくるのは選挙といっても過言ではありません。この基本が腑に落ちれば、『選挙』で何をすべきかよく



出口治明氏 APU HPより

わかります。」「政府は市民の手でつくるものであり、その政府をよりよくつくり変えるための手段が選挙です。政府に任せっぱなしにするのではなく、個人個人が頭でよく考え、友人や知人と議論した上で、その結果を示す行動が選挙です。」とおっしゃっている。

この候補者は、「どんな社会をつくりたいと考え、どんな法律をつくり、どんなことに税金を使おうと考えているのか」「どんな信条を持っているのか」などを知り、自分の考えに最も近い人を選ぶ(ぴったりの考えの人はまずいない)のが選挙である。また、『投票しない』という選択はどういうことなのか。どういう結果をもたらすのか」を知ること大切である。

生徒会役員選挙も同様で、一人ひとりが生徒会の一員であり、学校生活をつくっていく責任ある立場にあることを常々意識しておかなくてはならない。

また、いずれは社会を構成し、社会を発展させていく一員になることを踏まえ、主権者としてのリテラシー(能力)を高めていくことは、自分や社会にとって極めて重要なことである。主権者として学び、理解を深め、そして自分なりの考えをもつという

ことに取り組んでいこう。



広報きりしま R7年
10月号 おしらせ版表紙

地域貢献 ～縄文秋祭り ダンス部発表～

10月19日(日)、縄文秋祭りが行われた。5月の縄文春祭りでは、吹奏楽部が舞台出演し、今回の秋祭りではダンス部が出演することがここ数年恒例になっている。お昼をはさむ11:45からが出演。1年から3年生全部員が2つのダンスを元気いっぱい披露した。ダンスはもちろん、笑顔、トークもすばらしく、観客から多くの拍手と声援があった。また、南中の2つ前に出演を終えていたおそらく国分中央高校のダンス部の生徒さんたちであろう。ひととき大きな声援を送ってくださっていた。この舞台、ダンス部員にとっては、非常に貴重な機会と言えよう。一方で、縄文の森の職員の方からは「いつも参加して頂きありがたい」と感謝の意を頂いた。県の施設であり、本校区にある上野原縄文の森。ここの催しのへ出演も、りっぱな地域貢献である。



霧島市人権フェスタ ～宮本延春氏講演～

になる」の著書で有名な宮本延春(みやもと のぶはる)さんの講演が開かれた。宮本さんは、小学校で強烈ないじめに遭い、学校嫌いになる。16歳で心の支えだった母親を亡くし、18歳で父親とも死別。両親ともに親、兄弟、がいなかったために孤独の身となる。23歳で物理に興味をもち、27歳で名古屋大学理学部に合格し、36歳で高校教員になった方である。

宮本さんは中学卒業後、特になりたいものもなかったため、大工の見習いとして働き始めた。ところがそこは、今で言う“ブラック企業”そのもので、ビクビクしながら仕事をしていて。その後にご両親を亡くし、残ったのは父親の借金のみ。仕事も嫌気が指し2年ほどで辞め、アルバイトでなんとか食いつなぐという生活を送る。

そんな宮本さんに、人生を変える出会いが訪れる。20歳の時、友人からある建設会社を紹介された。この会社の親方は、宮本さんのことを何かと気にかけてくれた。そうする内に気持ちが変わり始め、「この親方を喜ばせたい」と思うようになり、仕事にも一生懸命励んだそうである。やがて、生活も気持ちも徐々に安定していく。そして、23歳のとき、知人から渡されたビデオ。それは録画されたNHKの「アインシュタイン・ロマン」という番組だった。この番組が人生を大きく変える。物理学という言葉すら知らなかった宮本さんがアインシュタインの相対性理論に触れ「雷に打たれたような衝撃」を受ける。そこから「この世界がどういう仕組みでできているか知りたい」と強烈に思い、物理学を学ぶことを決意する。物理学なら大学。さすがにいきなり大学には入れないと考え、働きながら学べる定時制高校を選択する。ただほぼ無学の宮本さん、九九もわからないレベルだったので、まず取り組んだのは小学3年生用のドリルから始めた。「目標ができるとあんなに嫌だった勉強に夢中に取り組むようになった。」と振り返られた。4年後には目標としていた名古屋大学に合格。なんと大学院まで進み、素粒子(物質を構成している最小の単位である粒子)の研究に没頭。やがて「母校に恩返しをしたい」という思いが芽生え始め、36歳で母校での教師の道を選択された。

宮本さんは言う。『〇』をたくさん出された子は、自分に『〇』を出せる。我が子にたくさん『〇』をつけてください。よかったところをしっかりと評価し、良いところを見つけようとよく観察することが必要です。「最も大事なことは存在を認めること、大切にすることです。」と講演を結ばれた。ちなみに、宮本さんのこの日のネクタイは、宮本さんを物理の世界へと誘(いざな)った科学者アインシュタインの写真がプリントされたものでした。



受賞・表彰

10/17 霧島市社会科作品展 特選 2 名

10/19 三旗リーグ第五回テクノ旗野球大会3位、同大会敢闘賞

10/25 ダンロップきりしま牧之原ソフトテニス大会チャレンジャーの部2位、3位

11/2 第10回西旗争奪野球大会2位

〔12月の主な行事予定〕

1日(月)2年1組保育実習 交通事故0月間運動～31 4日(木)～10 人権週間 5日(金)2年3組保育実習

9日(火)全校集会 11日(木)地区学校保健研究協議会、県学校ダンス発表会 8日(月)2年2組保育実習

12日(金)2年4組保育実習 13日(土)土曜授業、校内ロードレース大会 17日(水)性に関する授業2年講話

18日(木)第2回学校運営協議会 19日(金)学校専門部会 20日(土)門松づくり 23日(火)生徒集会

24日(水)終業式 25日(木)冬休み・通学路点検～R8. 1. 7 26日(金)仕事納め、県いじめ子どもサミット

31日(水)大晦日

※ あくまでも予定ですので、変更等が生じる可能性があることを予め、了解ください。